



たむらの稲作情報 ー第5号ー

令和8年6月26日発行

JA福島さくらたむら統括センター・田村農業普及所〈問合せ先：0247-62-3113〉

〔普及所 HP : <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36221a/r8inasakuinfo-01.html>〕

《1ヶ月予報（6/27～7/26、6/25 仙台湾気象台発表）》

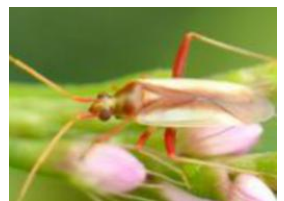
平年に比べて、気温は高い、降水量は平年並み、日照時間は平年並みの見込み

平年と同様に曇りや雨の日が多い予報です。

農作業中の熱中症に留意しながら、カメムシ類防除や水管理を徹底しましょう！

1 斑点米カメムシ類の防除

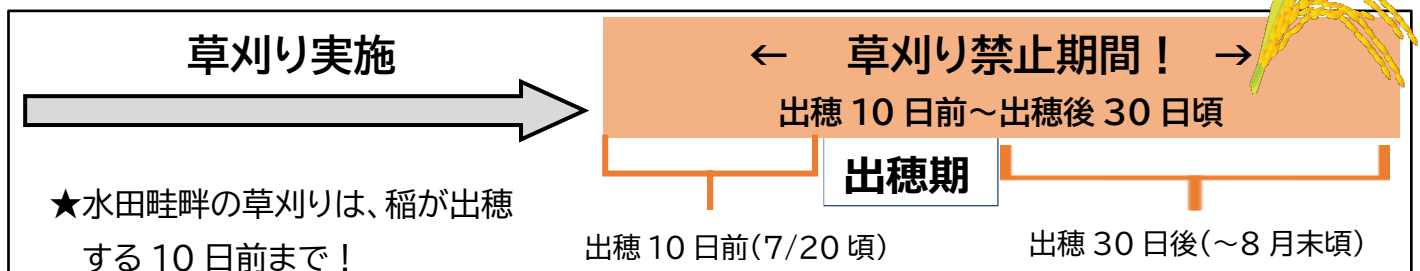
近年の主な落等要因はカメムシ類による斑点米です。高温により、今年もカメムシ類が多発する見込みですので、防除を徹底しましょう！



ポイント1

水田畦畔の草刈りは、出穂10日前（7月20日頃）～出穂後30日頃までは行わない！

※出穂期とは、水田内の全穂数の約50%が出穂した日。



ポイント2

斑点米カメムシ類の散布剤による防除時期は、

「**乳熟期（出穂期の7～10日後）**」と「**その7日後**」の2回散布が基本です。（ドローン防除が効果的です！）

※「ひとめぼれ」の乳熟期予想日：8/8～8/11頃

◎出穂期は平年並みの見込みです
ひとめぼれ 平年：8/1頃（小野）
コシヒカリ 平年：8/7頃（三春）

【表1 斑点米カメムシ類に効果のある薬剤例】

薬剤名	防除時期	希釈倍数・使用量	使用回数
スタークル粒剤 ※	穂揃期～乳熟期	3 kg/10a	3回以内
キラップ粒剤	出穂10日前～出穂期	3 kg/10a	2回以内
スタークル液剤10 ※	乳熟期及びその7日後	1000倍（60～150L/10a）	3回以内
スタークル粉剤DL ※		3 kg/10a	3回以内

※ 3剤とも有効成分が同じなため、併せて使用する場合は、合計使用回数に注意する。併せて、散布剤（液剤、粉剤）については、蚕への毒性が強い農薬のため、使用規制地域では使用を控えましょう。

【表2 現在の水稻の生育状況】

葉令は平年並み、草丈低く、茎数は並み～やや多い

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齡 (枚)	葉色値 (SPAD)
ひとめぼれ	37.1 (93%)	601 (98%)	8.6 (-0.1)	46.0 (+4.6)
コシヒカリ	40.1 (96%)	645 (112%)	8.9 (+0.2)	44.1 (+5.0)

※農業総合センター作柄解析試験（郡山市）の調査結果（5/15移植、6/23調査）

※カッコ内の数値は前5年平均との比較

2 中干し～出穂期までの水管理について

まだ中干しをしていない水田は、すぐに中干しをしましょう！

◇中干し終了時期は、出穂 30 日前までが目安＝7月上旬まで

◇生育遅れ、茎数不足の場合は軽めに干す（軽く足跡がつく程度）

（1）中干し後～幼穂形成期

急に湛水すると、根腐れを引き起こすことから、間断かん水後、^{ほうすい}飽水管理とする。

（2）穂ばらみ期～開花期

特に水を必要とする時期で、水不足とならないように湛水管理を基本とする。

（3）穂揃い期～登熟期

登熟期は高温対策のため、水温を上げないよう飽水管理とする。



写真 ^{ほうすい} 飽水管理

3 紋枯病・穂いもち対策

・高温・多湿条件で多発する紋枯病が、近年、管内で発生が増加している。上位葉鞘まで進展すると減収につながるため、昨年に多発した水田はしっかり予防防除を行うこと。

・いもち常発地や葉いもちが発生した水田では、出穂前の予防散布が重要です！



写真 紋枯病

【表3 紋枯病・穂いもちに効果のある薬剤例】

適用病害虫	薬剤名	防除時期	使用量	使用回数
紋枯病	モンガリット粒剤	出穂28～14日前	3～4kg/10a	2回以内
いもち病（穂いもち）	コラトップ粒剤 5	出穂15～10日前	3～4kg/10a	2回以内
	フジワン粒剤	出穂30～10日前	3～5kg/10a	2回以内

～～ 農作業安全・熱中症に注意しましょう！ ～～

○ 草刈り作業時は、防護メガネ等を装着し、畦畔の傾斜に注意して転倒を防止しましょう。

○ 農作業中は熱中症に注意し、こまめに休憩・水分補給を行い、暑熱対策グッズを活用しましょう！